

幼稚部	単元名	みんななかよしプロジェクト ーみんなちがって、みんないいー	24時間
単元の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを知り、自分を大切にしようとする気持ちを持つことができる。 ・自分のルーツや自分が繋がっている周囲の人たちや、そこから社会や世界にも目を向けていくことにより、自分たちの周りにある多様性に気づくことができる。 ・自分がいる身近な社会やそこから繋がる世界の中の多様性に気づくことにより、多様性を受け入れ、他の人や周囲の事象への思いやりの気持ちを育てることができる。 	
日本語の目標		<ol style="list-style-type: none"> ① グループ活動や全体での活動を通して、自分の気づいたこと、思ったことや考えたことを日本語で表現し、伝えることができる。 ② 日本語における思考力、判断力、表現力の基礎を培い、今後の学習活動に繋げることができる。 	
学習課題		<ol style="list-style-type: none"> ① 自分は誰かを知り、色々な視点から(国旗や子供たちに身近な衣食住について)世界の国々の違いに気づく。 ② 自分たちに関わりがある日本とイタリアや、世界の中にある違いや多様性を知ることにより、その発展として、多様性を受け入れるものの見方や態度や思考を持つ。 	
主な学習活動		<ol style="list-style-type: none"> ① 私は誰なのか、自分のルーツを知り、自分たちの周りの社会から世界への関心を高め、世界にある多様性に気づく。(自分たちに繋がる日本とイタリアのことから他の国に視点を広げる) ② 違いや多様性に気づくことで、それらを受け入れられる気持ちや思考を持つ。 ③ グループや全体で考えたり発言したりして活動することで、語彙を増やし表現力をつける。 ④ このプロジェクトのテーマソング「世界中の子供たちが」と「小さな世界」を、皆でふりをつけながら歌うことや世界地図や地球の絵を用いた共同作業を通して、自分も世界の一員であると感じる。 ⑤ 体験学習をする。 	

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
9/24	<ul style="list-style-type: none"> ・一学期の学習を振り返る。 <p>【自分】 ・自分とは誰か、自分のルーツを再確認する。</p>	<p>めあて <u>自分のルーツを確認し、自分を大切にしよう。友達のルーツとも比べてみよう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1学期に作成した「自分が生まれた国、両親が生まれた国や母国」をまとめたプリントを見ながら振り返り、自分のルーツを再確認する。 2. 自分のルーツと友達のものとの比較して、自分と友だちとの違いに気づく。 3. 『ぼく』の読み聞かせを聞き、まずは自分自身を好きになり大切にすることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に作成したプリントを使用し、視覚的に理解を深める。 ・児童だけでは難しい場合は、教師がヒントを与えて話しやすくする。 ・髪の色、肌の色などが違ったら友だちにはなれないのかを考えさせる。
10/1	<p>【国・国旗】 ・自分のルーツに関わる国や、今住んでいる国の国旗、また、世界で似ている国旗の学習から、世界の様々な国に目を向けていく。</p>	<p>めあて <u>日本とイタリアの国旗について知り、また、世界には似ている国旗があることを知ろう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分が生まれた国、住んでいる国の国旗について知る。 2. 世界には、それぞれの国に国旗があることに気づき、似ている国旗もあることに気づく。 3. グループに分かれ、プリントの中の国旗から、色・形など、どんなところが似ているのかに注目しながら似ている国旗を探す。 4. 自分たちが見つけた、似ている国旗について発表し、全体で共有する。 5. 各自で、ワークシートに、似ている国旗の中で好きなものを1組選び、描く作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせから、イタリアや日本や近い国を考えさせる。 イタリアや日本の国旗をボードに貼って示し、それぞれの国に国旗があることを理解させる。 ・似ている国旗が載っているプリントから、似ているものを探すことで、国旗の色や形に注目させて、色や形の表現の仕方も学習させる。
10/8	<ul style="list-style-type: none"> ・先週の学習からの発展とし、世界には違う国旗=国がたくさんあることに気づく。 	<p>めあて <u>世界には様々な国旗=国があることに気づこう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 似ている国旗について振り返りつつ、世界には似ている国旗だけでなく違う国旗がたくさんあることに気づく。(グループ学習から全体学習へ) 2. いろいろな国旗がたくさんあるということは、国がたくさんあるということにも気づく (196の国➡この数は、日本が承認している国+日本) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国旗の学習から国へと思考を発展させる。世界にはたくさんの様々な国があることに気づかせる。最後に、ウクライナの国旗をみせて、世界では、仲のいい国や仲良くしていない国があることについても気づかせる。(先日、子供から出たウクライナとロシアについての発話を活用)

	<p>【食】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とイタリアの食べ物や飲み物を認識し、日本とイタリアの食べ物や食文化の違いに気づく。 	<p>めあて <u>日本とイタリアの食べ物や食文化の違いを知ろう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読み聞かせ『14匹のあさごはん』を聞いた後、自分達の食べた今日の朝ごはんについて話す。 2. 日本とイタリアの食べ物の写真を見て、どちらの国の食べ物かを発表し、ホワイトボードに国別に分けて貼る。 3. 教師のヒントを聞きながら、写真の食べ物の名前を当てるゲームをして、その食べ物が日本とイタリアのどちらの食べものかを考え発表し、ホワイトボードに振り分けて貼っていく。 4. 食べるときに使う道具の違いについても気づく。 5. 日本とイタリアの食べ物の違いについて、教師のまとめを聞く。 6. 次週は、他の国の食べ物についても学ぶことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の朝食について話すことから、日本とイタリアの食べ物について目を向けさせる。 ・子供たち自身にホワイトボードに貼らせることで、学習への参加意欲を高め、視覚的にも日本とイタリアの食文化の違いが認識出来るようにする。 ・他の国の食文化へも意識を向けさせる。
10/15	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とイタリア以外の国の食べ物や飲み物などを知ることで、色々な国に食文化の違いがあることに気づく。 <p>イタリアと日本の食文化の違いのまとめ</p>	<p>めあて <u>世界の食文化の違いを知ろう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『世界中からいただきます』の本の中にあるいくつかの国の食事の写真を見ることで、日本とイタリア以外の国の食文化へも意識を向ける。 2. クループで、写真の資料から気づいたことを出しあう。 3. 世界には、色々な国で食文化が違うことに気づく。気づいたことを全体で発表する。写真の国ではどんな食べ物を食べていたか、どんな道具や方法で食べていたか等を、教師と一緒に確認していく。 4. 自分達が日ごろ飲んでいる飲み物を発表した後、世界にはどんな飲み物があるのかにも目を向ける。 5. 『世界中からいただきます』の写真の飲み物に注目し、それらはどんな飲み物なのか教師の説明を聞き、国による飲み物の違いに気づく。 6. クイズを通して、日本とイタリアの飲み物についても考える。 7. 各自で、ワークシートに、日本とイタリアの食べ物や飲み物を分類して貼る作業を通し、2国の食文化の違いを再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴的な写真を選定しておく。(メキシコ、モロッコ、ネパールなど) ・全体での発表の際は、児童が気付いていない注目点があれば、教師からヒントを出し気づかせる。 ・国ごとにホワイトボードに表示しながら確認させていく。 ・食べ物だけでなく飲み物にも目を向けさせる。 ・色々な国の特徴的なのみものを知った上で、日本とイタリアの飲み物についても考えさせる。 ・自分で作業することで、食文化の違いの学習を振り返らせる。
10/22	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の飲み物を味見体験(ミントティー) <p>【衣】:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国には、その国に合った色々な民族衣装があることを知る。 <p>家庭学習課題</p>	<p>めあて <u>世界のお茶を知ろうー飲み物体験①ミントティー</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先週学習したモロッコで飲まれているミントティーのもとになるミントの葉を触ったり、匂いをかいだりし、ミントティーを味見体験した後、感想を共有する。 <p>めあて <u>世界の服装や民族衣装の違いについて知ろう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の伝統的な着物が出てくる昔話の読み聞かせの後、普段自分たちが着ている服との違いに目を向け、比べてみる。 2. 服装に目を向けた後、日本には、お話に出てきた着物という伝統的な衣装があるということを知る。 3. 日本をはじめとし、世界の国には、様々な民族衣装があることを知る。 4. いくつかの国の民族衣装の写真を見て、どんな特徴があるのか、どこの国の衣装なのか、どんな違いがあるのか等、気づいたことを先ずグループで出し合い、その後、全体で共有して理解を深める。 <p>ワークシート 学習した国旗と民族衣装を線で結ぶ</p>	<p>先週の授業で、子どもたちが特に興味を示した、モロッコで飲まれているミントティーを実際に試飲して理解を深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装の違いを意識させることから、民族衣装へ思考を発展させる。 ・民族衣装とは何かを説明する。 ・日本とイタリアを含む、その他の特長的な国も民族衣装の写真を選んで提示する。(6か国程) ・全体では、ホワイトボードに写真を貼り、違いや特徴や国を確認し共有する。(気候との関係等) ・子どもたちが気づかない特徴があれば、教師が解説し、理解を深めさせる。

<p>10/29</p>	<p>世界の飲み物を味見体験 (紅茶)</p> <p>・世界の国には、その国に合った様々な民族衣装があることや、その特徴を知る。</p>	<p>めあて <u>世界のお茶を知ろうー飲み物体験②(紅茶)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界には色々なお茶の種類があるということ、また、原料のお茶の葉は、皆、同じ葉であることを知る。 2. 紅茶について知る。(生産地やよく飲まれている国等) 3. 紅茶の葉を触ったり、匂いをかいだりした後、実際に味見体験をして、感想を共有する。 <p>めあて <u>世界の民族衣装についてもっと知ろう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 先週学習した世界の特徴的な衣装以外の民族衣装についても、どんな衣装があるのかを写真で見て、違いや特徴に気づく。 5. 民族衣装の着せ替えゲームをする。 いくつかの国の、民族衣装を着た人のイラストを切ったピースを、グループで正しく合わせて完成させる作業をし、出来たものからホワイトボードに貼る。 6. 自分たちが貼った各民族衣装のイラストが正しく合わせられているか、全体で確認する。 7. 完成した民族衣装の違いを全体で共有する。 8. 自分たちが着てみたい民族衣装を発表する。 	<p>ミントティーに続き世界のお茶についても知らせることで、今後行う茶道体験へ繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅茶も緑茶も同じ茶葉からできていることを理解させる。 <p>プロジェクターで、いくつかの国の民族衣装の写真を見せながら特徴を考えさせ、解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特長的な民族衣装を着た人のイラストをいくつか選び、3等分したピースを準備しておく。 ・グループ対抗で競争させることで学習への参加意欲を高める。 ・自分たちで考えながら作業をすることで、民族衣装の特徴や違いについての思考を深めさせる。
<p>11/5</p>	<p>世界の飲み物を味見体験 (ほうじ茶)</p> <p>【住】 ・日本とイタリアの家の違いに気づく</p> <p>家庭学習課題</p>	<p>めあて <u>世界のお茶を知ろうー飲み物体験③(ほうじ茶)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界のお茶の中に、日本のほうじ茶があることを知り、ほうじ茶の葉を触ったり、匂いをかいだりした後、実際に味見体験をして、感想を共有する。 <p>めあて <u>日本とイタリアの家の違いについて知ろう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の伝統的な家が出てくる昔話の読み聞かせを聞く。 2. 絵や写真を見て、伝統的な日本とイタリアの家や内装の違いに気づく。 3. グループ活動で気づいたことを出し合う。 4. 全体で、家の形や内装の特徴について、共有し理解を深める。 <p>・日本とイタリアの家の絵のピース合わせパズルをし、完成したものをワークシートに貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ茶葉からできている様々なお茶の中の、日本のほうじ茶を知ること、茶道体験へ繋げる。 ・日本とイタリアの伝統的な家の写真を提示する。 ・それぞれの家に、どんな特徴があるのか、子どもたちに見つけさせる。 ・児童が気付かないところは、教師が解説する。 ・各自でパズルをすることで、両国の家の違いについて理解を深めさせる。
<p>11/12</p>	<p>・日本やイタリア以外の国の伝統的・特長的な家についても知る。</p> <p>・緑茶について知る</p>	<p>めあて <u>世界の家について知ろう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本とイタリアの家の発展として、世界にある特徴的な家について知り、世界の家には違いがあることに気づく。 2. スライドや写真で見た家の特徴について、気づいたことを発表し、共有する。(グループ活動→全体活動) <p>めあて <u>世界のお茶を知るー飲み物体験④(緑茶)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界のお茶の中に、日本の緑茶があることを知り、緑茶の葉を触ったり、匂いをかいだりした後、実際に味見体験をして、感想を共有する。 2. 緑茶を振ると、どのように味が変わるか実験し、振った後のお茶を味見して、感想を共有する。 3. 抹茶について知る。 4. 抹茶が作られる前の碾茶を触ったり、匂いをかいだりした後、抹茶を見て、今度、茶道体験で抹茶を飲むという予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界にある色々な国の伝統的な家をスライドで見せる。 ・世界にある特徴的な家の写真を提示し、気づいたことを出させる。(イグルー、ゲル、トゥルッコ、高床式住居等) ・緑茶の学習をすることで、次回の茶道体験に繋げる。 ・緑茶、碾茶、抹茶、を用意しておく。 ・実験をさせることで、緑茶や日本のお茶にさらに興味を持たせる。

11/19	<p>・2学期の学習を振り返り、まとめ。冊子づくり</p>	<p>めあて <u>2学期のまとめ—学習した自分のルーツや世界の国旗・世界の衣・食・住の違いについて振り返ろう①</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに学んだことについて振り返る。 2. 学習の出発点「わたしってだれ？」の自分の顔のシートを作成する。(2学期の学習のまとめ冊子づくりの表紙) 3. 似顔絵を見ながら、誰の顔かあてるゲームをする。 4. 自分と家族のうまれた国や母国、家族の好きなものをシートにまとめる。(冊子のページ) 5. 世界の子供たちの暮らしのビデオを観て、他の国の子供たちの暮らしを知る。 6. ウクライナの子供たちのビデオをも観て、避難している子ども達の現状を知る。 7. 何故避難しているか、教師の説明を聞く。 	<p>・これまで学習した資料を提示しておき、児童が思い出しやすくする。</p> <p>・自分の顔を鏡で見ながら描くことで、自分について改めて認識させる。</p> <p>・みんな仲良しプロジェクトでは、避難しなければならぬ子どもたちにどうしてあげたらいいか、今度考えていくことも知らせる。</p>
11/26	<p>・抹茶や茶道について知り、茶道を体験する</p>	<p>めあて <u>茶道体験を通して、日本文化に触れよう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緑茶の授業を振り返るとともに、茶道では抹茶が使われていることを知る。 2. 抹茶がどのようにしてつくられるかを知る。 3. お茶室で、茶道を体験し、お菓子やお茶をいただく稽古をし、日本文化に触れる。 4. 作法に従ってお茶をいただくことで、茶道のおもてなしの心について気づく。 5. 茶道体験の感想を共有する。 	<p>・石臼で抹茶を作っているビデオを見せる。</p> <p>・実際に茶道を体験させることにより、日本の伝統文化を知るきっかけとする。</p> <p>・坐禅体験もさせ、作法だけでなく茶道を行う心持ち等についても感じさせる。</p>
12/3	<p>・2学期の学習を振り返りながら思考を深める。</p>	<p>めあて <u>2学期のまとめ—世界の中にいる自分に気づこう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先週の個々での作業を友達との共同作業へ広げる。 2. 「私ってだれ？」の自分のルーツを認識する作業や2学期に学んだことを振り返りながら、自分の存在も周囲や社会や国や世界とつながっていることに気づく。 3. 地球の絵の周りに、自分や両親を貼り、友達とも繋げる作業をグループで行うことにより、地球上でつながっている自分たち、世界の一員である自分達を認識し、思考を広げる。 <p>めあて <u>茶道体験②—お菓子とお抹茶の運び方を覚えよう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. お菓子とお抹茶の運び方を練習する。 2. 次週は、自分たちが、茶道でお母さんやお父さんたちをおもてなしすることを覚える。 	<p>・地球の絵の作業を完成させることで、大きな地球の絵の上に、自分達が存在していることを視覚的に捉えさせ、地球上でつながっていることに気づかせる。</p> <p>協力しながら共同作業させることにより、友達とのつながりも感じさせる。</p> <p>先日のお稽古を思い出させながら、お茶やお菓子の運び方を練習させる。どんな気持ちでおもてなししたらいいかを考えさせる。</p>
12/10	<p>・今までの学習のまとめをすることにより思考を深める。</p> <p>・茶道でお茶をふるまうことで、お母さんやお父さんに感謝の気持ちを伝える。</p>	<p>めあて <u>2学期のまとめ—学習した自分のルーツや世界の国旗・世界の衣・食・住の違いについて振り返ろう②</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに学んだ世界の服装や家を振り返ることにより、衣、住についての世界の多様性を再確認する。 2. グループに分かれ、世界地図上に家や民族衣装を貼っていく。 3. できた地図を見ながら、気づいたことを出し合う。 4. 全体活動で共有する。 <p>めあて <u>茶道体験③—自分達でお茶をふるまおう。おもてなしを通して、相手のことを思う気持ちや思いやりの心に気づこう</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茶道体験で習ったことをもとに、保護者に感謝の気持ちを込めてお茶をふるまう。(おもてなし) 2. 自分たちが習ったことを披露するとともに、保護者にも茶道を体験してもらう。 3. 感謝や思いやりの心をもって行動し伝えることを知り、その行動はお互いにとって気持ちがよいことに気づく。 	<p>・これまで使用した資料を提示しておき、児童が思い出しやすくする。</p> <p>・作業の仕方を示す。</p> <p>・自分たちで、地図上に貼っていくという作業を通して、学習した家や衣装の違いについて改めて確認し、違いを認識させる。</p> <p>・おもてなしの心をお辞儀や動きで表現することやおもてなしで人に喜んでもらう心地よさに気づけるようにする。</p> <p>・子供の活動を通して、保護者にも日本文化を体験し、子供たちの気持ち</p>

		4. 「世界中の子供たちが」の歌を披露する。	を感じてもらう。
12/17	<p>・今までの学習全てのまとめをすることにより思考を深める。</p> <p>・児童の成果物で2学期の学習全体の振り返りやまとめをすることから、思考を発展させ、3学期の学習に繋げる。</p>	<p>めあて 2学期のまとめ—自分のルーツや世界の国旗・世界の衣・食・住の違いについて振り返ろう③</p> <p>2学期の学習を発展させて3学期に繋げよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに学んだ世界の食べ物を振り返り、世界地図上に貼ることにより、食における世界の多様性を再確認する。 2. グループに分かれ、地図上に世界の食べ物を貼る。 3. 出来た地図を見ながら、気づいたことを出し合う。 4. 全体活動で共有する。 5. 2学期学んだこと全ての項目について振り返る。 6. 共同作業で作成した大きな地球の絵や衣食住の世界地図を見ながら、世界の中で色々な違いがあっても、自分も世界の中の一員であり、世界が平和で皆が仲良くすることは、自分を大事にすることと同じように大切なことだということに気づく。 7. ウクライナの子供たちのビデオを振り返る。 8. どのようにすれば、みんなが仲良く過ごせるのかを考え、それを冬休みの宿題として保護者と一緒に考えていくことを知る。(身近な友達と仲良くするには→社会、世界へ思考を発展させる) 9. 3学期もこのプロジェクトが続いていくことを知る。 	<p>・今までの全ての作業の成果物を見ながら、2学期の学習で、どのようなことが分かり、どんなことを感じたかを話させる。</p> <p>・2学期の学習全体のまとめをさせ、3学期の活動に繋げる。</p> <p>・ウクライナ(イタリアからそれほど遠くないことを地球儀で確認)の子供たちの様子を思い出すことで、自分たちが繋がっている世界で起こっていることについて目を向けさせ、思いを共有させる。</p> <p>そのうえで、どのようにすればみんなが仲良く過ごせるのかを自分なりに考えさせる。</p>
	冬休みの学習課題	<p>3学期に向けて</p> <p>・みんなや世界が仲良くするためにどうすればいいかを、保護者と一緒に考える。</p>	<p>・冬休みの宿題で、保護者にも子供と話し合いながら一緒に考えてもらい、3学期の学習へつなげる。</p>

(みんななかよしプロジェクト学習活動の重要観点)

総合学習(教科横断型学習)、体験学習、アクティブラーニング、非認知能力の伸長、日本語力の違う児童が共に活動・参加できる

- ① 多様性への気づき➡ 世界の一員である自分について考え、世界の違いについて学ぶことによって多様性に気づく。イタリアに住んでいる日本人としての自分。
- ② 多様性の受け入れ➡ 体験学習(学習した飲み物の中から様々な違うお茶を体験した後、茶道体験でおもてなしや思いやりの心を感じる体験をする。読み聞かせで、人と仲良くしたり人やものごとを受け入れたりする心を育てる。
- ③ 日本文化の体験➡ 日本文化の中にある伝統や教養を体感することにより、日本人としてのアイデンティティを感じる。
- ④ 保護者参加型の授業を盛り込み、保護者の日本語教育や日本文化への意識も高める。

(3学期の学習課題)

- ・みんなや世界が仲良くするためにどうすればいいかを考える。

(2学期から3学期に続くめあて)

- ・感謝や思いやりの心をもって行動し伝えることを知り、その行動はお互いにとって気持ちがいいことに気づく。そして、自分の好き嫌いかかわらず、そういう心をもって、身近な社会や世界の中にある違いや多様性を受け入れられるようになることが、みんなが仲良くできることに繋がることだと結び付けて感じる事が出来る。